

若年性認知症の人のデイサービス創業の手引き

1 創業に向けた準備

(1) 若年性認知症デイサービスのイメージづくり

○若年性認知症の方の特徴を理解する

若年性認知症の人は不安を抱えています。

まだまだ体は元気なのに

仕事を続けられなくなる

収入がなくなる

人づきあいができなくなる

配偶者など家族に大きな負担をかける

一方で、こうした思いもあります。

自分らしく生きていきたい

仲間を作りたい

誰かの役に立ちたい

仕事がしたい

働いて収入を得たい

家族を安心させたい → 実現したい

若年性認知症デイサービスは、仲間と集い、安心して過ごせる居場所、社会とのつながりや自分の役割を実感できる場所です。

イメージしてみてください。

気持ちよく居られる場所

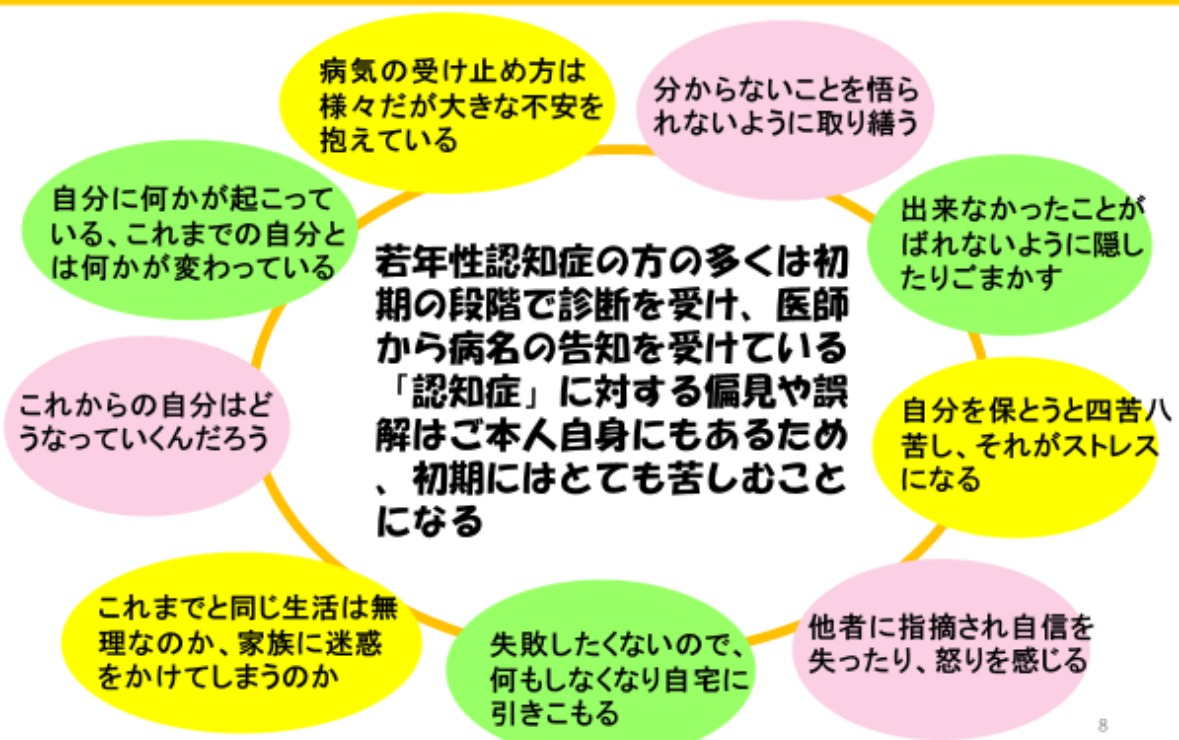
自分を認めてくれる場所

自分を必要としてくれる場所

仲間と一緒に居られる場所

仕事ができる場所

若年性認知症と診断された方の心理状態



(2) 運営の姿の明確化

○どのような形で若年性認知症の方を受け入れるのか運営の形を決めます。

- ・高齢者デイサービスだが、若年性認知症の方の受け入れを積極的にする
例) 紫水苑
- ・高齢者デイサービスだが、曜日を限定するなどして、若年性認知症の方だけの活動を設定する
例) けやきの家
- ・主に若年性認知症の方が利用するデイサービスを創業する
例) DAYS BLG
受入人数(定員)、職員体制、開設日(何曜日)・時間(何時から何時まで)、利用する部屋を決めます。

(3) 若年性認知症に関する情報・知識の習得

担当職員の若年性認知症を含む認知症介護の資質向上を図ります。

- ・担当職員への研修(外部研修受講の機会の提供)
- ・若年性認知症に関する知見を有する医師、看護師、作業療法士を始めとする認知症医療・介護の専門職への指導、助言の依頼
- ・既の実施している事業者への指導、助言の依頼(平成28、29年度に県が創業を支援した4つの事業者は助言できます。)
- ・若年性認知症ハンドブック、若年性認知症ってなんだろう、若年性認知症支援コーディネーターのためのサポートブック(就労支援や居場所づくり支援事業の実践事例)
- ・平成26年度 認知症介護研究報告書「若年性認知症者の生活実態及び効果的な支援方法に関する調査研究事業」

(4) 1日のスケジュールの検討

運営方法によりますが、大まかなことだけを決めておき、具体的な活動は当日、利用者が自主的に決めて実行するようにします。

季節の行事や地域の行事(お祭りや避難訓練等)などに合わせた活動も取り入れます。

[例]

- 10:00 集合、健康チェック、打合せ
- 11:00 体操、脳トレ、軽作業など
- 12:00 昼食
- 13:00 社会活動
- 15:00 打合せ、解散

(5) 活動内容（対応可能なアクティビティ）の検討

利用者が充足感を得られる活動を用意すること、又は、利用者と一緒に考えることが大切です。他人のお手伝いや作業など、他者の役に立つという実感を得ながら活動することで、利用者も生き生きします。

これまでの職種や経験が生かせたり、得意なことが発揮できるよう配慮し、達成感を得ることで自信を取り戻すことができます。

〔例〕

デイサービスの手伝い（介護補助、食事の準備・片付け、おやつ作り、レクリエーション準備、荷物運び）、環境整備補助（清掃、除草）、調理補助、農作業（近隣農家の手伝い）、園芸、手工芸、車両管理（洗車等）、楽器演奏や特技の披露



デイサービスのお手伝い



デイサービス利用者へ教えている



おやつへの盛り付け



農作業



園芸

(6) 送迎

どの地域まで送迎に対応するかで利用者の範囲が広がります。若年性認知症の場合、介護者も仕事をしている場合が多いため、送迎サービスは欠かせません。

事業所の最寄駅までが一般的ですが、自宅まで（片道30分程度）対応できると利用の可能性が高まります。

最寄駅で待合せをする場合、認知症の進行により待合せが困難になる時期を見極める必要が生じます。

また、家族に同行してもらったり又は自宅まで送迎対応すると、その機会を活用して利用者の症状について家族と情報共有することができます。

(7) 謝金

事業所の手伝いを含む社会活動により謝礼を得られることは、利用者にとって大きな喜び、やりがい、達成感につながります。

可能な範囲内で検討してみてください。

現金に限らず、昼食代無料、収穫作物の現物支給、パン教室で作ったパンの持ち帰りなどの例もあります。

※ 参考資料：厚生労働省 平成30年7月27日 事務連絡「若年性認知症の方を中心とした介護サービス事業所における地域での社会参加活動の実施について」

(8) ボランティアの活用

認知症サポーターを始め、認知症の人やその家族のお役に立ちたいと思っている人がいます。市町村によっては認知症サポーターフォローアップ研修を実施し、研修受講者を（パートナーとして）登録している場合もあります。

職員以外でもできる業務をボランティアにお願いするのも一つの方法です。

ボランティアの募集については、県のホームページの「オレンジ広場」を活用してください。

● オレンジ広場URL

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/kyaravan/orange-hiroba.html>

(9) 家族への相談・助言

事業所には介護に関する専門職員がいます。

デイサービス事業と併せて、家族介護者に対し、利用者の日常生活における介護等に関する相談に応じ、助言を行う取組もぜひ検討してください。

家族は日々の生活で、本人ができないことが増えてくるのを目の当たりにしています。デイサービスでの生き生きとした様子や、残されたたくさんの能力について積極的に家族に伝えてください。

また、利用者がデイサービスを利用している時間帯に「家族交流会」を開催し、専門職による助言や家族同士の悩み相談など、家族の負担軽減に関する取組についても御一考ください。

地域貢献や家族支援にも御協力をお願いします。

2 事業開始

(1) 利用者募集のお知らせ

ア チラシの作成

県のホームページに掲載しているチラシを参考にしてください。「デイサービスの利用」ではなく「補助スタッフとして一緒に働きませんか」などと工夫しています。高齢者のデイサービスの利用に抵抗がある人もおり、サービスを提供する側となってもらふことをPRしています。

イ 周知

作成したチラシを事業所のホームページに掲載するほか、市町村、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、医療機関、近隣店舗など可能な限り広範囲に配布し、周知の協力を依頼します。併せて、医師会、介護支援専門員や介護事業関係の団体にも協力を依頼します。例えば、病院においては、一部の職員だけでなく、医師、看護師、リハビリ職、相談員など全員に知ってもらうようにします。

埼玉県若年性認知症支援コーディネーターのところには県内の若年性認知症の方の相談が集まっています。送迎範囲内に対象者がいないか、確認してみましょう。

若年性認知症の方は障害者就労支援施設を利用している場合もあるため、チラシの配布先として、また連携先として協力依頼をしてみましょう。

(2) 利用者決定後の具体的な活動内容の決定

利用者の希望を確認します。しっかり話を聴き、生活歴や興味を理解し、利用者のできることや興味のあることを探ります。

固定されたプログラムではなく、その人に合ったプログラムを個々に考える必要があります。

また、認知症の進行によりできなくなることもあるため、利用者に合わせてプログラムを柔軟に変更していくようにします。

- ・ 高齢者のデイサービス補助活動の場合、スタッフと同じユニホームを着用することで、やる気や責任感を喚起できます。
- ・ 外出することで気力が湧き、人の役に立っていることを実感できます。
- ・ 社会参加又は高齢者デイサービス事業としての外出は、楽しいだけでなく、見どころ、トイレ・駐車場の場所、バリアフリーの状況の調査などを通じて、スタッフの一員として役割を果たしていることを実感できます。

例) 道の駅（外食、クラフトづくりなどに参加）
古民家（幼少期の回想、昔の遊び）
大人の社会科見学（身近な物の生産過程を見る）
神社仏閣、公園（季節を肌で感じる）

・有償ボランティアを引き受け実施することで生きがいづくりにつながります。

例) 洗車、情報誌のポスティング、老夫婦世帯の庭手入れ、草取り等

(3) 留意点

カンファレンスを実施し、事業所全体で情報を共有し、次回利用時の注意点を確認します。

担当職員と一緒に行動し、利用者の状態を確認しながら遂行します。

失敗しないようにサポートする（職員主導）のではなく、失敗しそうになったらサポートする（利用者主導）よう心掛けます。

家族の協力を得ることは必須です。

介護支援専門員とも密に連携します。

3 想定される課題

若年性認知症デイサービスを運営する上で、下記のような課題が見つかることが想定されます。若年性認知症デイサービスを運営している事業者や若年性認知症支援コーディネーター、行政等と相談しながら、ひとつひとつ解決していくことが大切です。

- ・利用者を見つけることができるのか
- ・どこまで送迎に対応できるか
- ・（利用者全員をまとめてではなく利用者個々の）個別ケアが必要であること
- ・高齢者デイサービスとの併設
（※ 高齢者デイサービスで受け入れ、スタッフの立場で活動してもらうことで、高齢者デイサービスとの併設はできます。）
- ・若年性認知症についてスタッフの経験や知識が不足している
- ・デイサービスがこれまで地域と繋がりがなく、地域で活動できる場所や行事がわからない
- ・就労支援のノウハウがないので、どのように仕事や社会参加活動につなげるかわからない

4 成果

高齢者ばかりのデイサービスの利用を嫌がり自宅にこもっていた方が、居場所を見つけ、社会とつながり、仲間と出会うことにより認知症の進行を遅らせることができるかもしれません。

若年性認知症の人が社会参加し、生きがいを持って、その人らしく暮らしていくことにつながります。

- ・得意なことで能力を発揮すると、
役割を実感できる
意欲が向上する
自分で考えて行える
ことで、やりがいや達成感を得られます。
- ・サービスを受ける側ではなくサービスする側になります。
仲間に会え、仲間と仕事ができる
地域や社会とつながることができる
謝礼を得る喜びを感じることができる

そして何より事業所として地域との繋がりを持つことで社会貢献ができ、地域づくりの一助を担うことができます。さらにスタッフの認知症ケアのスキルアップにもなります。

5 問合せ先

①埼玉県 福祉部 地域包括ケア課 認知症・虐待防止担当

電話：048-830-3251

②埼玉県 若年性認知症支援コーディネーター

電話：048-667-5553